電子展示委員会活動報告

電子展示委員会

「戦国武将の書状」を公開

昨年度「ちりめん本」の公開後に懸案としていた画像をどう見せるかという課題に取り組むべく、平成19年度の電子展示室の題材には、画像としては一枚ものとなる書状を選択し、戦国武将の書状を取り上げることにした。

公開した書状は全部で14点。内訳は伊達政宗１点、細川忠興１点、毛利輝元１点、武田信玄１点、織田信長１点、徳川家康２点、豊臣秀吉（羽柴秀吉）７点である。戦国武将の書状と併せて電子展示室の同じページで豊臣秀吉記も公開したため、豊臣秀吉の書状を特に多く取り上げた。豊臣秀吉記は上巻１冊、中巻２冊、下巻３冊の計３巻６冊の207丁を全頁公開した。

公開方法としては、書状14点については画像を一枚に収め、それぞれについて画像で不鮮明となってしまう部分の読解の補助となるように書き下し文を付け加えた。豊臣秀吉記は画像を公開するのみとした。

公開資料の選定、公開方法の決定、書き下し文のテキストデータ作成は電子展示委員会で行った。コンテンツの作成は、画像撮影、デザイン、構築まで、業者委託した。

画像は、例年現物撮影の後、カラーマイクロを作成、スキャンしtiff形式の高精細画像を作成、そこからさらに公開用としてjpeg画像に変換していた。しかし、今年度は画像をweb上でいかに見せるかに重点を置くこととしていたため、そういった資料保存のための作業にコストをかけることを避け、マイクロ作成、高精細画像作成をやめた。

また、課題達成のため、コンテンツ作成のキックオフの前に、委託業者とこれまでの電子展示室のコンテンツの問題点を洗い出したところ、以下の点が挙げられた。

①コンテンツによってフォームが定まっておらず、一度に各年度のコンテンツを閲覧すると、目の動きが一様にならずストレスとなる。また、同コンテンツ内でも階層ごとに各ボタンの位置が変わるなど、マウス操作が煩雑なことがある。

②画像に動きがないため、ページを開いた後、閲覧側は受動的にならざるを得ない。

結果、以下に挙げる方向性でもってコンテンツを作成することになった。

①flashを用い、ユーザーフレンドリーなインターフェースにする。

②コンテンツ内でフォームの揺らぎを生じさせず、閲覧方法を分かりやすく表現する。

③コンテンツ内で画像等に動きを持たせる。

具体的には、①②については作成するコンテンツのインターフェース、ナビゲーション、レイアウト、ビジュアルを電子展示室のトップページと類似したものとすることで、コンテンツ内に遷移した時に違和感を与えないようにした。

③については、コンテンツ内に「ナビゲーションツール」というツールバーを用意し、それによりコンテンツ内の画像の縮小拡大や、ページ送りができるようにした。また、書き下しの表示されるテキストエリアをクリックすることで開閉を可能にすると同時に、画像の位置を移動できるようにした。

さらに、コンテンツ内の編集ツールを作成し、情報の追加、修正、削除等の編集を容易に行えるようにした。flashを用いたのは、この編集ツールの実装を可能にするためでもあった。これによって、今年度のコンテンツは、現状の状態から、さらに内容を拡充することも可能となっている。

結果、昨年度までのコンテンツとは、かなり趣を異にするコンテンツが実現した。閲覧利用者をいかにして引き付けるかという課題に対しては、有意な実験となったものと思われる。

電子展示委員会活動休止報告

平成13年度より活動を開始し、のべ５回のサイト更新を行い、関西大学図書館所蔵資料の公開、それによる認知度の向上の任にあたってきた電子展示委員会は、今年度をもって、一旦活動を休止することになった。活動再開予定は未定である。すでに公開しているコンテンツに関しては、今後も、公開し続けていく予定である。